

# チェルノブイリ通信

<https://www.cher9.org/>

NPO法人  
チェルノブイリ医療支援ネットワーク  
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-11-5F  
TEL/FAX : 092-260-3989  
E-mail : jim@cher9.org



チェルノブイリ医療支援ネットワーク (CMN) は、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心と心のつながりを深めます。

No.

123

## 特集 2021年3月福島訪問レポート

CONTENTS 福島訪問レポート① 福島第一原発事故から10年 福島の今  
①～津波と原発事故で突然奪われたふるさと～〔富岡町・双葉町〕 /  
福島訪問レポート② 被災地の今を肌で感じた8日間 /  
活動報告 映画サマシヨール鑑賞 / 伊藤さんへのインタビュー /  
古本募金きしゃばんのご紹介とお礼 / シンカブルのご紹介 /  
支援者のお名前とメッセージ



夜の森の桜並木 (福島県双葉郡富岡町)

あなたもチェルノブイリを支える一人になっていただけませんか？  
ご寄付を受け付けています。

郵便振替口座	01770-1-65328
	他の金融機関からは 一七九支店 (当) 65328
楽天銀行	ジャズ支店 (支店番号201) (普) 7017104
住信SBIネット銀行	法人第一支店 (支店番号106) (普) 1030416
※口座名はいずれも「NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク」	

## 福島第一原発事故から10年 福島は今①

### 津波と原発事故で突然奪われたふるさと

報告

チェルノブイリ医療支援ネットワーク

理事 寺嶋 可南子

震災そして原発事故から10年が経過し、テレビ等での報道も減少し、オリンピック・パラリンピックの開催で復興は完了したかのような雰囲気漂っています。本当に復興は進んでいるのでしょうか。報道される機会の減った被災地の今を知るため、3月18日（木）から25日（木）まで福島県を訪問しました。

2011年3月11日に何が起こったのか、そして10年たち被災地はどのような状況に置かれているのか3回に分けてご報告いたします。

今回の訪問先をまとめた地図を8ページに掲載しておりますので、こちらをご参照ください。また、ホームページには紙面の都合で掲載できなかった詳しい報告や、カラーの写真も紹介予定です。ぜひご覧ください。



いわき震災伝承みらい館

中央には2011年3月11日に卒業式を迎えた中学3年生が黒板に記したメッセージが展示されています。

### ■恐怖を感じるほど強い揺れが続いた

東日本大震災が発生した2011年3月11日は福島県内の多くの中学校で卒業式がおこなわれた日でした。14時46分マグニチュード9、最大震度7の地震が発生、福島県でも震度6強の揺れが観測されました。縦揺れ、横揺れは長時間続き、立ってられないほど。転倒を免れた棚も10数センチ動いたというお話も伺いました。卒業式が終わったばかりの体育館には片付ける間もなく避難所が開設されました。

その後大津波が発生。真っ黒な大津波は一度だけでなく何度も海沿いの町を襲いました。



いわき市 薄磯の海

ここには5.81mの津波が到達し、111名が犠牲となりました。地盤のかさ上げ、堤防や防災緑地の整備が進み、海は高台からしか見ることはできなくなりました。



奇跡のピアノ

大津波に襲われた旧豊間中学校のグランドピアノ  
砂と海水の影響でほとんど音が出ない状態でしたが、  
修復作業の結果再び音が出るようになりました。



相馬市 津波犠牲者の慰霊碑



相馬市原釜地区の海  
津波は海岸から4kmまで流れ込みました

## ■そして原発事故が起こった

この大地震で福島第一原子力発電所は緊急停止し、外部電源を喪失しました。その後襲来した津波により様々な設備が停止したため、原子炉内の冷却ができなくなりました。その結果、3月12日には1号機、14日には3号機、15日には4号機が相次いで水素爆発を起しました。

2号機は1号機爆発の際に天井の一部が飛んだため爆発を逃れましたが、放射性物質の放出は最も多かったと言われています。

## ■行先も期間もわからないまま避難

原発事故と前後するように付近の住民へ避難指示も出されました。当初は2km圏内とされていましたが、3km、10km・・・と避難指示はどんどん広がっていきます。避難先も定まらない中、行き先のわからないバスに乗り避難が始まりました。変化する避難指示に何度も何度も避難場所を変え、町役場ごと県外へ避難する決断を下した自治体もありました。

仮設住宅に入居後も多くの人が田舎の暮らしとギャップに悩まされました。田舎では家の間隔が広く隣家の生活音はほとんど聞こえませんが、合板一枚で仕切られただけの仮設住宅では生活音も筒抜け。ストレスを感じる人も少なくありませんでした。



自然災害に想定外はありません！

その時のために心と物資の備えを忘れないことが大切です

いわき震災伝承みらい館 語り部の方に教えていただいた「災害に備えて今できること」を紹介し  
この機会に大切な人と防災について話してみませんか

- ☑ 家族で避難先を決めておきましょう（津波の危険がある場所にはたとえ自宅でも戻らない）
- ☑ 非常持ち出し袋の中の衣類はビニール袋に入れ、津波や雨で濡れないように備えておきましょう
- ☑ チョコレートや飴玉は常に携帯しておきましょう
- ☑ 連絡帳を作成し、携帯しましょう（万が一自分が亡くなっても身分証明ができる）
- ☑ 常備薬一覧表を携帯しましょう（おくすり手帳より手軽で、違う薬局でも処方してくれることも）

## 富岡町

双葉郡のインフォメーションセンター「ふたばいんふお」富岡町文化交流センター「学びの森」を訪れ、震災当時や現在の状況をお聞きしました。



ふたばいんふお  
双葉8町村の震災から現在が紹介されています。  
お土産や記念品も販売されています。

### ■奪われた当たり前の日常

富岡町は福島県の太平洋側の中ほどに位置する町です。震災前は16,000人弱ほどが住んでいました。

地震の後富岡町は津波にも襲われ、富岡駅や富岡漁港は看板が倒れ、ゆがみ、建物の骨組みだけが残る無残な姿になりました。高台にあった市役所などの施設は津波に襲われることなく無事だったため、文化交流センター「学びの森」の大会議室に災害対策本部が置かれました。停電で電話も使えない中、原発関連の情報は数十m離れた場所にある市役所にしか入らなかつたため、何度もこの2か所を走って情報伝達が行われたそうです。

ところが、3月12日に原発20km圏内へ避難指示が出され、富岡町は全員で川内村に避難することになりました。それから5年以上にわたりふるさとへ帰ることができなくなるとは誰も思わなかったことでしょう。さらに、16日には川内村も避難対象となり、最終的に郡山市のビッグパレットふくしまへ避難することとなり、町役場・災害対策本部も郡山市へと移されました。

### ■避難指示解除後も戻らない住民

2017年4月1日に一部の帰還困難区域を除き避難指示が解除されましたが、現在も町外で生活している住民の方も多く、郡山市には役場の支部が置かれています。2020年3月10日には帰還困難区域のうちJR常磐線夜の森駅と周辺の道路の避難指示も解除されました。町内には複合商業施設もオープンし、診療所も開設されるなどインフラも整備されています。

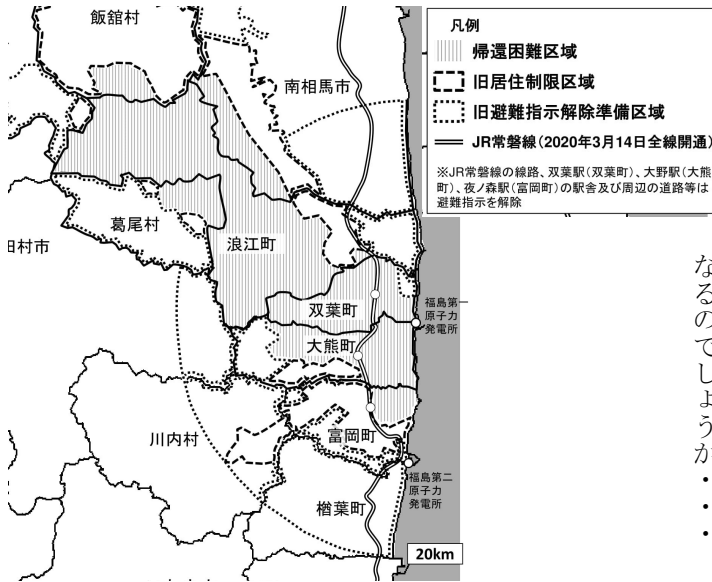
2018年4月には町内で小学校・中学校も再開しました。2022年4月には富岡第一小学校・第二小学校、富岡第一中学校・富岡第二中学校がそれぞれ正式に合併し「富岡小学校」「富岡中学校」として開校予定です。



新しくなった富岡駅



富岡町文化交流センター 学びの森



避難指示区域の概念図（2020年3月10日時点）  
\*経済産業省ホームページより引用

町内のほとんどの地域で避難指示が解除され約4年が経過しましたが、今も町の人口は当時の10分の1程度で1,200〜1,300人ほど。そのうち半数は復興関連の流入者だと言われているので、もともと富岡町に住んでいた人で戻ってきた人は500〜600人ほどしかいないこととなります。確かに道路を走る車も一般車両よりも工事関係の車両のほうが多い印象を受けました。富岡駅周辺も人通りは少なく、とても静かでした。一度人がいなくなりゼロからのまちづくり。事故以前の活気が戻ってくるのはいつになるのでしょうか・・・

## 双葉町

### ■今も人が住めない双葉町

原発事故後双葉町の人々は川俣町へ一時避難しましたが、最終的には「さいたまスーパードリーナ」へ避難することを決めました。事故後10年経過した今も双葉町のほとんどの地域が帰還困難区域に指定されています。町の北側のごく一部が避難指示解除準備区域に該当しているのみで、今も人が住むことはできません。

そんな双葉町で立ち入ることができるのは双葉駅周辺と東日本大震災・原子力災害伝承館、産業交流センターがあるエリアなどごく一部です。今回はシャトルバスで駅から伝承館へ向かいました。バスから見た双葉町には草木に埋もれるようにして10年前のまま時を止めた住宅や車と除染が完了したのか更地になった場所が混在していました。駅の西側には「さあ双葉町の未来をはじめよう住宅用地造成中」とあり、新市街地の整備が進められていました。



上：東日本大震災・原子力災害伝承館  
下：伝承館周辺の様子



双葉駅周辺でおこなわれていた写真展  
2枚設置されていたメッセージボードには多くの来場者の方がメッセージを寄せていました  
\*現在この写真展は終了しています



# 被災地の今を肌で感じた8日間

報告 チェルノブイリ医療支援ネットワーク

理事 川原 秀之



JR常磐線 浪江駅



常磐線の電車 (富岡駅)



南相馬市小高区

## ■福島県南相馬市へ

今回の訪問では緊急事態宣言発令中の首都圏を避けるため、福岡から空路で仙台空港に向かいました。仙台空港アクセス線を経由し常磐線に乗り換え、福島県へ入りました。常磐線は震災と原発事故の影響で富岡駅〜浪江駅間で不通となっていました。2020年3月14日に全線開通しています。

途中の原ノ町駅で下車し、1時間30分ほど乗り換えのため待つことになりました。原ノ町駅〜いわき駅間は震災前は1時間に1本程度の電車があったようですが、運転再開後は1〜2時間に1本に減っていました。

## ■南相馬市小高区

原ノ町駅で電車を乗り換え、南相馬市の小高駅へ到着しました。南相馬市は市内の南側が原発20km圏内で小高駅のある小高区には避難指示が出されていましたが、2016年に解除されています。

18日から3泊した双葉屋旅館は駅から歩いて数分でした。駅に到着したのは16時半頃でしたが、駅前通りには人も車も見当たりませんでした。駅や宿周辺を散策しましたが、歩いている人は見かけませんでした。



▲ 公園とモニタリングポスト（左奥）

◀ 上：浪江町津島地区

◀ 下：富岡駅周辺

散策中に目についたのは白いモニタリングポストです。公園にもモニタリングポストが設置されていました。滞在中何度かこの公園を訪れましたが、子どもが遊んでいる姿を見たのは1組の親子だけでした。これが現実なんだと認識しました。

### ■被災地を歩く

今回で福島は4回目の訪問ですが、どうしても電車で移動して歩きたいという思いがありました。歩くとその場所の雰囲気や距離を把握することができ、何よりもそこに住んでいる人と出会うことができるからです。初めて訪れた飯館村、二本松市東和地区は車での移動となりましたが、富岡町、双葉町、南相馬市を歩きました。

浜通りの南相馬市小高、富岡町、双葉町、飯館村、浪江町では歩いている人が少なく、街全体がひっそりと静かだと感じました。人の息吹が感じられませんでした。どれくらいの歳月を要せば震災前のコミュニティに戻るのか、もしかしたらそれは果たせないものなのかと逡巡しました。



安達太良山



猪苗代湖

また、今回の訪問では福島の雄大な自然に触れることもできました。日本第3位の広さを誇る猪苗代湖はその壮大さに驚きました。滞在最終日は晴天に恵まれ、安達太良山がきれいに見え感動しました。

### ■最後に

ベラルーシ共和国ブレスト州における医療支援は1997年7月の検診から始まりました。1986年4月26日のチェルノブイリ原発事故から検診を開始するまでに11年を要しています。私たちはこれから福島に密着し、まずは地元の方々に認知していただくが必要だと思っています。

# 福島 MAP

Study-tour In Fukushima

2021.3.18~3.25

相馬市 ~ いわき市  
原祭について学びました

① 相馬市伝承鎮魂祈念館  
震災で失われた相馬市の、「原風景」を後世に残す。

② 双葉屋旅館  
お母さんがとこステキな方で、ご飯もとこも美味しいのであ

③ いいたて村の道の駅  
まてい館

④ 獨協医科大学  
国際疫学研究室 福島分室

⑤ 道の駅  
ぶくしま東和

⑥ 山木屋地区  
復興拠点商業施設  
「とんやの郷」

⑦ 道の駅  
たみえ  
New! 道の駅。  
とこもきれいです!

⑧ 東日本大震災・原子力災害伝承館…  
ぶたば、ぶたたの☆  
2011→2021  
想いをつなぐ写真展

⑨ ぶたばいんふか  
富岡町文化交流センター 学びの森  
東京電力廃炉資料館  
久々浜漁港  
来風まらら

⑩ いわき震災  
伝承  
みらい館

福島県



相馬野馬追って? とらのおい

福島県の相馬地方を3日間にくた)  
開催される祭典です。  
今回、馬追にゆかりのある  
相馬小高神社に行きました。



## 映画 サマシヨール鑑賞

2021年3月11日KBCシネマで上映された福島第一原発事故の被災者を取り上げたドキュメンタリー映画「サマシヨール」を鑑賞しました。ベラルーシや福島への訪問が難しい状況の中、福島について改めて考える機会となりました。大学生のボランティア2名からいただいた感想を紹介します。



インターン・ボランティアの皆さんにも参加していただきました



大学3年生 Aさん

この映画の題名である「サマシヨール」とは、チェルノブイリ原発事故により帰還困難区域となった場所に帰り、生活している人々を指すウクライナ語です。頑固者と訳されることもあるそうで、元より自分の住んでいた場所で生活したいという被災者の切実な思いを感じます。この映画では、現地のカメラマン2人による取材から福島に住んでいる方々の生の声を聴くことが出来ました。思い出の詰まった我が家がすぐ先にあるのに帰って生活ができない悲しさや、自分の家族を家に呼ぶことができず、それも仕方ないんだけどねと笑う姿に、言いようのない寂しさを覚えました。

10年の時が経ち、失くしてしまった大切な場所とは別の新しい場所で、前向きに日々を過ごされている方々がいることを改めて認識する機会となりました。10年前のあの日から、被災された方々は、遠く想像も及ばないような思いをされているのだらうと思います。チェルノブイリ原発事故と共に、フクシマの事故についてもまだまだ知らないことの多い私ですが、事実を知り、現地の方々の思いを知ることが誰かをたすける第一歩になると信じ、今後も少しずつ学んでいきたいと思っています。



大学2年生 Uさん

東日本大震災・福島第一原発事故から10年。九州に住む私にも、福島に住む人々にも同じ10年という時間が流れた。風化させてはならないと口では簡単に言えるけれど、私はこの10年間ずっと思い続けられたかと聞かれるとうなずくことはできない。忘れていたわけではないけれど、やはり九州と東北では距離があり、震災や原発に関する報道も年々減っているために現状を知る機会が少なくなっていた。だからこそ、今回の映画鑑賞は改めて考えるきっかけになった。

映画では政治家や専門家などの難しい話ではなく村に住む人々の生の声が聞けた。除染のために土を剥がされた土地をもう一度耕して蕎麦の種を撒く。いつの日か帰ってくる子孫のためにふるさとの地を耕して守り続けている。その姿には意地やプライドが感じられた。しかし、畑に撒いた蕎麦の種が育ってもその蕎麦は誰にも食べさせられない。食べれば内部被ばくする。どんなに努力しても放射線の影響は消えることはない。長谷川夫妻のシーンは笑顔が多かったが、きっとその笑顔の裏にはたくさんの苦勞や苦悩がある。私が何気なく過ごした10年。飯舘村に住む人々にとっては放射能と共存を強いられながらもふるさとのために尽力してきた10年だっただろう。復興という言葉を経々しく使ってはいけないなと思った。

映画 サマシヨールに出演されていた  
飯舘村在住の伊藤延由さんに飯舘村でお会いし、大学生から寄せられた質問にお答えいただきました。その一部を紹介します。  
伊藤さんに案内していただいた飯舘村の様子は次号に掲載予定です。

■伊藤さんは2010年に新潟県から飯舘村へ移住されたとのことですが、移住のきっかけを教えてください

私は「米作りは有機栽培」というこだわりを持っていました。新潟にいた頃、綺麗な緑色の絨毯の水田と、雑草が生い茂る休耕田や畦、農道の差に違和感を抱きました。原因は除草剤の多用です。私には孫が7人いるのですが、孫たちには農薬を使ったものは食べさせたくないと思い、有機栽培できる土地を探していました。

有機栽培をして病虫害が出たら周りに与えた被害の責任も負う必要があります。そのため、土地があるだけでは簡単に始められませんでした。飯舘村の野手神地区で米作りをしていたのは当時一軒だけで、そのおじさんに話してみると協力すると言っていただけだったので有機栽培を行うことができました。

■震災当日はどのように過ごしていましたか

薪ストーブの燃料を作るために知人の家の山の立木を伐採していました。3回連続して強く揺れたので、かなり長く感じました。恐怖を覚えるほどの揺れで、木を伐採してしまっていたので何かに掴まることもできず地面に這いつくばるしかありませんでした。

■原発の情報はいつ知りましたか

震災後から13日の夕方まで停電が続いたので、その間は一切情報は入ってきませんでした。ラジオも持っていたのですが、こちらも雑音ばかりでほとんど聞こえませんでした。13日の夕方に停電が解消し、テレビをつけると原発の話ばかりだったのでそこで知りました。



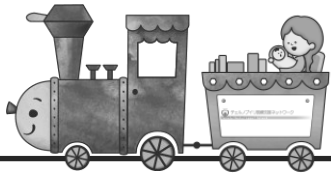
伊藤延由さん（左）  
原発事故が起こったのは移住して1年がたった頃でした。避難指示解除後は再び飯舘村に戻り、山菜やキノコ、土壌などの放射線量の測定を続けていらっやいます。

11～12日にかけて南相馬市から福島市へ抜ける道路が大渋滞したようですが、私の家から離れているので全く分かりませんでした。飯舘村にも双葉町や大熊町から避難者がきて、一時は1,200名ほどが学校の体育館などに避難していました。19日には飯舘村から栃木県鹿沼市への自主避難が呼びかけられ、4月22日には村全体が計画的避難区域に指定されました。

■事故前に1年しか住んでいなかった飯舘村に今も住み続けている理由を教えてください

飯舘村に住む人の被ばくのリスクを少しでも減らしたいからです。本来は行政が被ばくのリスクや回避の方法を説明するべきだと考えていますが、被ばくのリスクは語られません。私が事実を発信することで、人の役に立てればいいなと思っています。

放射線は目に見えず実感できにくいので、どうしても意識が低くなってしまふのだと思います。しかし、村内の線量は低いところでも事故前の2～3倍です。被ばくのリスクは若い人ほど高いと言われています。村内には生まれたばかりの子どものもいるので、大人には子ども達の被ばくを避けてあげてほしいです。



# 古本募金 きしゃぽん

ご支援・ご協力をありがとうございます！

読み終えた本やCDなどで募金ができる「古本募金きしゃぽん」を通じて、たくさんのご寄付をお寄せいただいております。  
誠にありがとうございます。引き続きよろしく願いいたします！

◀ これまでにお寄せいただいた寄付額 ▶

988,428円(307名)

- ◆ 2017年1月～12月 78,612円(35名)
- ◆ 2018年1月～12月 139,795円(70名)
- ◆ 2019年1月～12月 403,362円(97名)
- ◆ 2020年1月～12月 188,378円(88名)
- ◆ 2021年1月～3月 178,281円(17名)

あなたのご自宅や職場に眠るお宝が  
チェルノブイリ支援につながります



その他、懐かしのおもちゃ、ブリキ玩具(昭和40年代以前のもの)、フィギュア、プラモデル、鉄道模型、洋酒、テレホンカード、商品券、切手、ハガキ、年賀状、カメラレンズ、模型、絵画、万年筆など…

※取扱い品についての詳細は同封のチラシをご覧ください！

## クレジットカード決済・シンカブルのご案内

### S Syncable

この度クレジットカードで寄付ができる“Syncable(シンカブル)”を導入しました！  
チェルノブイリ医療支援ネットワークのホームページや右のQRコードからアクセスできます。

お手持ちの端末でお読み取りください



### 事務局インターンのご紹介

大学3年生、荒木星来です。よろしくお願いいたします。



/ 現在就活中です！ \

チェルノブイリ医療支援ネットワークさんとの出会いは、インターンシップお受け入れのお願いにきたことでした。昨年夏のインターンではインターンサポートスタッフとして関わらせて頂き、その後は個人的に活動に参加し様々なことを学んでいます。

この団体は原発事故についてやそれに関わる人々の声などの貴重な情報を得られる場所であり、私に多くの方との出会いをくれた場所でもあります。価値観の違う方、知識や経験が豊富な皆さまとの交流は非常に魅力的で、刺激を受けながら学ぶことの多い日々です。

今回チェルノブイリ通信の編集に参加させて頂きました。至らない点等あるかと思いますが、今後もスタッフの皆様にご教示を頂きながら改善して参りたいと思います。

# たくさんのご支援を ありがとうございます

(順不同・敬称略)

合計 540,853円

- \*活動支援金 474,853円
- \*のぞみ21カンパ 6,000円
- \*雪だるま3号カンパ 2,000円
- \*東日本支援カンパ 36,000円
- \*おまかせカンパ 22,000円

(2021年2月～2021年4月分の寄付内訳)

## ●口座受付寄付

稲毛修子 佐藤久美 里見照子 杉田英雄 関根敏子 高木裕子 佃あけみ 鳥巢多加子 中村幸枝 西嶋香穂子 福井寿雄 古本募金きしゃぼん(運営:嵯峨野株式会社) 本田美穂子 増田朋子 松井岩美 本岡眞利子 友愛幼稚園 藤田房二 四元洋子 和田政子

## 〔都道府県別〕

【石川県】 1名	【東京都】 1名	【埼玉県】 2名
【愛知県】 1名	【大阪府】 1名	【兵庫県】 1名
【鳥取県】 1名	【島根県】 1名	【岡山県】 1名
【広島県】 4名	【山口県】 2名	【福岡県】 28名
【佐賀県】 1名	【長崎県】 2名	【熊本県】 1名
【大分県】 2名	【宮崎県】 2名	【鹿児島県】 5名

計57名(匿名含む)

## ●月々の定額寄付(マンスリースポーターの皆さま)

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井上礼子 内野千鶴子 江原健一 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 小黒慈子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 古賀尚子 財津耐代子 財津悠子 斉藤美代子 阪口香奈子 坂口馨子 佐々野也依 佐藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 末永浩子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱加 綱脇牧子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 西首延子 丹羽道代 納富育代 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤本孝子 湊田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松木幸美 松永庸子 丸山子より 水本敬子 三野桂子 宮野義治 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 渡邊久美子

計113名(匿名含む)

貴重なご寄付をお寄せいただき、どうもありがとうございます。皆さまよりお預かりしたご寄付は、チェルノブイリ被災者医療支援、福祉工房のぞみ21支援、移動検診車雪だるま4号購入の積立、東日本震災被災者支援、事務費用等にあってさせていただきます。

※通信へのお名前掲載をご承諾いただいた方のみ、ご紹介しております。

## 皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

●のぞみ21の商品カタログがほしいです。●ありがとうございます。美味しいコーヒー、毎回のしみにしています。●寄附をいたします。よろしくお祈りします。●少しでもお役に立てると幸いです。●心ばかりですが募金させていただきます。●トリチウムが話題！放水反対！●長年の地道な活動、頭が下がる思いです。少しですが、お役に立てればと思います。●フアトレードのコーヒー、紅茶ありがとうございます。とても香りがよくコーヒーおいしく頂きました。●いつもありがとうございます。よろしくお祈りします。●お役に立てれば嬉しいです。●ひとりでも多くの方が笑顔になればと思っています。私にできることは少ないかもしれませんが、一緒に頑張っていきたいです。●大変な活動を支えていらっしゃる皆さまに感謝します。応援しています。

## お知らせとお願い

### 振込

用紙は原則として毎号同封しています。これは「思い立った時にいつでも振り込みできるように、毎号同封してほしい」という要望があったからです。決してお振込を強要するものではありません。恐れ入りますが、ご不要な方は処分をお願いいたします。

### 住所

を変更された方は、事務局までお知らせください。なお今後の資料送付がご不要の場合は、お手数ですが、事務局までその旨ご連絡ください。

## 編集後記

123号から通信編集担当が新しいメンバーになりました。大学生が今回はぎりぎりの段階で参加してくれました。ありがとうございます。急をお願いして驚いたことでしょうか。これからは温故知新で古いものを大事にしながらも新しいものを取り入れていきたいと思います。よろしくお祈りします。(H・K)

活動の様子や通信バックナンバーなどはホームページをチェック!

チェルノブイリ 医療支援

検索

地球にやさしい再生紙と大豆インクを使用しています